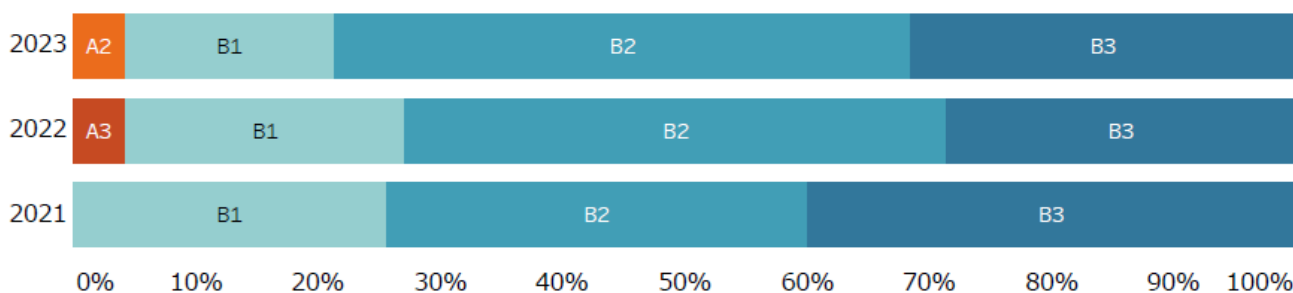


## 2023年 栄光学園 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。全体的な難度は昨年と変わらず、とても重たい問題が並びました。変化する状況をていねいに追って具体化する力、あきらめずに粘り強く調べ続ける力、調べたものを分析して一般化できる力、そして何より、問題に向き合うことを楽しめる力が必要だと思います。もちろん、入学試験であるため、実際の入試では問題の取捨選択は必須ですが、日々の学びでは、答えを求めるだけにとどまらず、多種多様な解答プロセスに目を向け、どんどん深めていける姿勢が大切です。



大問1は栄光学園で頻出の図形の移動でした。図形の移動をていねいに追って、正しく作図をしていけば、得点しやすい問題と言えます。(2)は、(1)ウの解答となる「5秒後」に着目するとよいです。(2)、(3)では「すべて答える」必要があります。自信をもって「これ!」と言い切るのは難しいと思いますが、日頃から、いろいろな解き方にどれだけ目を向けてきたかが問われていると言えます。大問2は、積み木を積み上げた立体の切断でした。多くの受験生が類題を経験していると思います。各段をていねいに調べていきます。(1)イは、「体積が $1\text{cm}^3$ 未満」となる点に注意します。実際の試験では、(2)の2回切断まで取り組み、(3)の3回切断は見送ることになるかと思います。

大問3は、数の規則に関する問題でした。数に操作を加えて調べる問題は、多くの受験生が経験していると思います。全体の中でもかなり取り組みやすい問題です。ここに時間をかけてキッチリ得点しておきたいです。(3)は、調べることを通じて規則を見つけていきます。すると、偶数の場合、前に調べた偶数(たとえば、6なら3、8なら4など)が使えることが、また、奇数の場合、次の偶数(たとえば、3なら4、5なら6が使えることがわかるので、自分が調べたものを活用することができます。(4)は、複雑な式が並びますが、式をていねいに追っていき、自分が調べた表を活用していくことで、答えにたどり着くことができます。ここに時間をかけて、得点できたかどうかで差がついたと思います。

大問4は、サイコロを転がして目の変化をとらえる問題でした。今年、女子学院でも同様の出題がありました。栄光学園では $100 \times 100$ マスになっています。同様の問題に取り組んだことのある受験生も多いと思います。(2)までは得点しておきたいです。(3)以降は、実際の試験では、見送ることになると思います。

難問に向き合い、試行錯誤して楽しめる受験生こそ、栄光学園が求める生徒だと思います。問題の取捨選択などすべきではないことを承知していますが、大問2(3)、大問3(5)、大問4(3)、(4)を落としたとしても、およそ6割5分程度には達することができると考えられます(あくまでも予想です)。